

令和元年十二月末。宇都宮サッカー協会の窓口のS君が、我が家にフラリと現れて「宇都宮サッカー協会が一月二十五日に七十周年記念の集まりをもちます。」と言いだした。

表彰の件など、「エツ」と、云ったか云わなかったか、はっきりしなかった。それは九十歳になったトタン、「オレは毀れていく・・・」と自覚することが、複数回あり、記憶力の減退がはげしく、はっきりサッカー協会への意識は皆無に近かったのぢやないかな。

「あれから何年よ。」と思ひ出しを計った。とにかく、完全にというほど忘れていたことは事実だったことは間違いないなろう。

それがその後、物置の棚にあった、「四十周年記念誌」と、その後、S君が持参した「五十周年記念誌」を読み返すうち、当時のことがボチボチと想い出されてきて、事の次第がつながり筋道がとおり始めた。あの創世記のまとめ四十周年記念誌の表題には宇都宮・河内のサッカーと書いてある。

七十周年の祝賀会にきて、パンフレットを渡されて、その昔、私が画いたカラーのエンブレムに出会えて大変に嬉しかった。我が家のサイドボードの上には、木製のエンブレムが飾ってある。

当時小生は県サッカー協会で広報をやらせてもらっていましたが、あの頃少年の部に鹿沼の大関君、真岡の小学校の先生？（失礼、お名前が出ない、熱血漢でしたよ）が張り切っていて、県内各地区の少年部門が実力をあげてきた。

ところが宇都宮・河内地区のチームがあまりにも弱い、それで「栃木サッカー・宇河盆地」と云う「合言葉」をつくって敵対心をあおった。

加えて中学校部門に「しもつけサッカー寒稽古」という名の、聞けば一目でわかるネームバリューの大会を始めた。これは年末冬休み中の 二六、二七、二日間十二チームで始めて、だいぶチームづくりの色々工夫をした覚えがある。それで十回位まで関わった気がする。その時は、三日間二十四チームだったかな？ そんな事で始まったものが、四十年たった今では一〇九チームにもふくれあがって、今や地域産業にもかかわる状態です。素晴らしい。皆様に感謝。

あの頃は多忙でしたよ。校内暴力で二校を七年で歩き。小生が協会の席を離れたのは平成二年頃だったのぢやなかったかな、何があつて身を引いたか、理由が全然判らない。かすかに想い出したのは、あのサッカー好きの矢口君に後事を託すべく、話し合った記憶が想起された。なにがあつて代替わりした方が

良からうかとの判断での行動だったことは間違いない。

その当時、情報を得るために先進地区静岡へ何回か行きましたよ。今も記録を伸ばすべく頑張っている、アノ男、十五歳の少年が一人でブラジルへ行った「キング・カズ」そのサッカー気遣いの叔父さんともよく話し合った事も懐かしい。

あれから何年。平成だって三十年間だからね。なんと七十年を経過したわけです。早いものですね。協会の歴史を考えると、今回の七十年記念を含め創世期とプラス四十年記念。五十年記念。七十年記念の三つの節目が出来たことになりました。二十八日には、下野新聞の記事になっていました。

今回の被表彰者十五名、小生を除く十四名は順当です。小生の永年功労者賞は、趣旨が異なる。

小生の表彰の対象期間は、創世記フランス四十周年までさか登つての、特別の表彰となる。ナント三十年を越す復権なのです。こんな思い切った表彰は、余程の事だ。それ程の責任を負って実行した協会の勇気を称えたい。それ程の事なのです。今のサッカー協会だからこそ実現した。

陽南中時代の教え子だった、通称マルタケ、武田義雄君。私財まで投じて、セルジオ・越後、ラモスなど、ブラジルのサッカーを紹介してくれた。没後ではあるが、永年功労者受賞のメンバーに入っているのは当然だし嬉しい。

あの表彰の場で、小生に祝賀の声をかけに演壇の下までかけ集まってくれた大勢の諸君達と（百人？）何十年振りに交わした挨拶、感動、感激し、改めて感謝の意を伝えたかった。事前にしゃべっていいかと聞いたら、外のかかりからダメだと云われた。しゃべれなかつたのは残念だった。自然のなりゆきに話すべきだったかな？ それにしても小生の協会への執念を正しく理解してくれていた人物がいた。花道をつくってくれて有難う。

小生がサッカーを知ったのは、昭和十二年、日支事変が始まった時です。宇大附属小学校の見目先生による。下手の横好きだがサッカー大好き人間。

戦争が終わって何年。子ども達のため一人の売名でも何でも無い。子ども達が喜んでサッカーをやるような、雰囲気作り。つまり人間づくりよ。

思い出す、平成十七年大沢の子供殺人事件から始まった地区のボランティア組織の立ち上げと定着から、単なる看視、見守り活動を超越して、人づくり活動に徹するボランティア活動。平成二十九年宇都宮教育委員会、平成三十年栃木県防犯協会から受賞の荣誉に浴した。下界は新型コロナウイルス大恐慌。

今や、百年時代、生きるぞ！ 皆様もお元気で！ 我々の目標は「宇都宮、河内の子ども達を育てよう」なのです。

宇都宮サッカー協会

70周年、100人が祝う

さんも
楽演
相講

201.28
【宇都宮】宇都宮サッカー協会の設立70周年記念式典が25日、駒生1丁目のコンセールで開かれ、永年功労者の表彰や記念講演が行われた。

協会は1949年の設立。式典には指導者や審判員、役員ら約100人が出席した。町田文男会長(79)



永年功労者の表彰を受ける
社会人連盟の阿久津さん
(右) 宇都宮市内

は「少子化の中、サッカー人口を増やすために、協会の活性化や充実を図ることが大切だ」とあいさつ。永年功労者表彰では社会人連盟の阿久津弘幸さんから15人が表彰を受けた。

記念講演では3大会連続でワールドカップ(W杯)に派遣された元国際副審の相楽亨さん(43) 壬生町出身IIが、副審の道へ進んだ経緯や、W杯の裏話を披露。「一番速かった選手は(元オランダ代表のアリエン・)ロッベン。私が副審をやっている、追い付け

なかつた」などと語ったほか、判定が物議を醸したシーンなどについて独自の見解を交えて解説した。

(鈴木久崇)

永年功労者は次の通り。

- ▽社会人連盟 阿久津弘幸
- ▽中学連盟 瓦井雅士、御子貝和亮、高橋裕一、斎藤憲一
- ▽少年連盟 亀井義夫、国分進
- ▽女子連盟 御代田晴雄、岡田むつみ
- ▽審判委員会 奥沢浩、根岸豊、佐藤洋
- ▽役員 武田義雄、中島一輔、鎌倉三郎